

Title	奥付
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1965
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.58, No.9 (1965. 9)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19650901-0144">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19650901-0144</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

ベトナム戦争、最近ではインド・パキスタン両国間の武力衝突等、国際的な危機の要因は益々深まるといふ印象が強い。ベトナム問題にしろ、あるいはインド・パキスタン紛争にしろ、たんなる局地的な事態でないことは、事態そのものの進展が示しているのである。こういうさいに、われわれ社会科学の研究に従事するものが、各々の対象領域に固執し、孤立し、分極化を強めていくようでは、これらの事態の本質を科学的にとらえ、訴えてゆくという作業をおしすすめることは、きわめて困難であると考へざるを得ない。研究者であるがゆえに、これらの問題に対し、つねに一歩のいて、客観的にものをみる必要があるという見解は、ややもすれば問題解明の努力にべールをかぶせてしまう結果ともなりかねない。いまの段階は、各自の客観的分析だけが要求されているのではない。そうした、いわば研究者としての学問的な分析力が、大衆にどれだけ浸透力をもっているかを試されている段階であり、いかえれば、その分析成果をもって、研究者が、この危機的状况に対し、各自どんな姿勢で臨んでいるかが、注視されているときである。いまや、社会学者が窮極的にもつべき、「人間性」を、われわれが日ごろの研究活動のうちにかに貫いているかを、深く反省してみるときである。同時に、われわれの研究対象が生きた人間社会であることを再確認すべきである。

(飯田裕康)

昭和四十年九月一日発行

◎三田学会雑誌 第五十八巻 第九号

定価 一二〇円(送料)

東京都港区芝三田二丁目二番地

慶應義塾経済学会

編集兼 代表者 遊 部 久 蔵

電話三田(43)二二二一  
振替口座番号 東京四四〇五六

印刷者 東京都港区芝三田豊岡町八番地  
図書印刷株式会社

安 倍 七 郎

半カ年予約購読料(送料共) 七二〇円

一カ年 " " 一四四〇円

御希望の方は左記へ購読料を添え御申込み下さい。

東京都高輪局区内三田綱町一番地

発売所

慶 應 通 信

振替口座番号 東京一五五四九七